

栗谷ツ遺跡 第66地点

遺跡名（よみがな）	栗谷ツ遺跡（くりやついせき）
調査地点	第66地点
主な時代	縄文時代中期後半（約4,900～4,500年前）、弥生時代後期～古墳時代初頭（約2,000～1,700年前）、平安時代（約1,200～1,100年前）
調査地	富士見市大字水子字北別所地内
調査面積	754.09㎡のうち、約480㎡
調査期間	令和6年6月17日～令和6年8月9日
調査内容	<p>【確認された主な遺構】 縄文時代竪穴住居跡4軒、弥生時代竪穴住居跡3軒、平安時代竪穴住居跡2軒、 など</p> <p>【出土した主な遺物】 縄文土器、石器、弥生土器、土師器、須恵器、土製品、鉄製品、青銅製品</p> <p>【概要】</p> <p>栗谷ツ遺跡は、市域南部の武蔵野台地縁辺部に立地しています。旧石器時代から江戸時代の各時代の遺構や遺物が見つかっており、とくに縄文時代中期や弥生時代後期～古墳時代初頭、平安時代の遺構が多く見ついています。</p> <p>本地点は、遺跡南東部に立地し、縄文時代中期後半の竪穴住居跡4軒、弥生時代後期の竪穴住居跡3軒、平安時代の竪穴住居跡2軒などが見つかりました。</p> <p>縄文時代中期後半の集落は遺跡西部で確認されていますが、遺跡東部にも集落が広がっていた、もしくは存在していたことを示す調査結果です。</p> <p>南東部に隣接する別所遺跡で弥生時代後半～古墳時代初頭の集落が確認されており、それがさらに北に広がっていたことがわかりました。</p> <p>平安時代の竪穴住居跡からは、鍛冶に関連する遺物が多く出土しました。この住居が鍛冶工房であった、もしくは近くに工房があったことを示すものです。また奈良時代の役人のみが持つことを許された青銅製の巡方（ベルトの帯金具）が出土しました。富士見市で青銅製の巡方が出土するのは初であり、貴重なものです。</p>



栗谷ツ遺跡第66地点 全景写真



発掘調査の様子

栗谷ツ遺跡 第66地点



埋設土器と石囲い炉を伴う縄文時代中期の竪穴住居跡



住居の炉として使われた土器（縄文時代中期・埋甕炉まいようろ）



弥生時代の竪穴住居跡



弥生土器が出土した様子



平安時代の竪穴住居跡



平安時代の遺物が出土した様子



ふいごの羽口（左）と帯金具じゆんほう（巡方・右）が出土した様子



出土した巡方。中央部に漆が残る。使用されていた当時は、黒漆が全面に塗られていたと考えられる